



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2022年1月9日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:7名(うち中学生3名)

指導員:5名

テーマ 鳥を探してみよう

ツグミなど冬鳥が飛来しているため、今回のテーマは鳥です。

コハクチョウが見たいと、名古屋から親子連れ2人が初めて参加してくれました。先月はコハクチョウがまだ渡って来ていなくて、1月に来ていたら見に行くという予定だったので、グッドタイミングです。

138タワー玄関前に集合した時、ハヤブサが飛んで来てタワーの屋外階段の手すりに止まりました。短時間で姿を消しましたが、目にする機会の少ない種ですから、幸先のよいスタートです。

堤防道路から川原のヤナギの枝に猛禽が止まっているのが見えました。ノスリかと思い、川原に下りて近づいてみると、飛びたつたのはオオタカの若鳥でした。

エノキの梢にはイカルの群がいました。フィールドスコープで見ると、黄色の太い嘴がよく分かります。辺りの木の枝には、ツグミ、シメ、カワラヒワといった鳥が次々と飛んで来たり、飛び去ったりしてにぎやかです。

草原では口笛のようなベニマシコの鳴き声が聞かれ、動いているものを双眼鏡で追うと、ピンク色の美しい卵、黒と褐色の地味な卵とも姿を確認することができました。ただ、動かないと分からないので、残念ながら見つけれなかった人もいたようです。

今回は11時前にいつものコースを切り上げ、車で木曽川橋下流のコハクチョウ飛来地に向かいました。木曽川左岸の岸近くで、コハクチョウ18羽がゆったりと泳いだり、立ち上って歩いたりしています。その中には昨年夏に生まれた体が灰色の幼鳥も何羽か含まれていました。餌のおこぼれをもらうためか、コハクチョウの周りをオオハン10羽ほどが動き回っています。沖の方にはキンクロハジロとホシハジロの群が浮かんでいましたが、今季、木曽川のカモは例年に比べ極めて少数です。寒さが厳しくなれば飛来数が増えてくるのでしょうか。

近くの草原ではカシラダカが群れていました。ホオジロくらいの大きさですが、時に頭の冠毛を立てるところからカシラダカという名がついています。

現地で散開した後、乗り合わせていった参加者を138タワーパークまで送って行った時、朝方ハヤブサを見かけたタワーの屋外階段の手すりに、再びハヤブサの姿がありました。この屋外階段は普段は人が出入りすることはなく、岩壁と似た環境なのでハヤブサが定着しているのかもしれない。次回以降、気を付けてみます。(報告:齋竹)
<その他観察できたもの>

鳥:ノスリ、トビ、メジロ、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、キジバト、ホオジロ、ダイサギ、カワウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ウグイス(声)



(川原で飛びたつたオオタカを観察)



黄色の嘴が目立つイカル



木曽川のコハクチョウ



カシラダカ



ハヤブサが屋外階段の手すりに